

聖句

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」

ヨハネによる福音書 15章5節

「大丈夫！」

入所依頼の電話が市区町村の相談員からかかってくる。スタッフが集まって協議。

「部屋の準備が整うか」「スタッフがその方のニーズに十分こたえられるか」等々。エレベーターがないので、階段の上り下りができる方や、常駐の医療スタッフがないゆえ、重篤な病気がない方に入所が限られるが、女性の家HELPは緊急一時保護施設として「安全で安心できる場所」を必要とされている方をお引き受けしている。

来所の時間を確認して、調理師に食事数の変更を依頼。部屋の掃除をし、空気を入れ替え、寝具の用意をする。相談員と来所されるのが、夕方になることもある。アレルギーがあるか、薬の服用は自己管理かといったことや、お名前の呼び方なども確認する。入浴時間や食事時間、消灯時間等、女性の家HELPの生活の決まりを説明する。外出に関してや携帯電話の使用に関してのルールはお一人お一人状況が違うので、経験豊富なスタッフが、同席の相談員とも確認しながら、ご本人と話す。丁寧な面談はその後の生活がスムーズにいくためにも必須。そして最後に「朝食には卵が出ますが、目玉焼きかゆで卵かどちらになさいますか」と問う。DV被害で苦しい生活をされた入所者の多くは、自己決定のチャンスを奪われている方が多い。小さなことでも、「あなたのご希望をお聞かせください」「あなたがお決めくださいってよいのですよ」との姿勢をスタッフ達は大事にしている。

慣れないシェルターでの生活では失敗もある。お食事の時、おつゆをこぼすこともある。門限にダイヤの乱れで少し遅れることもある。子どもが絵本を意図せず破いてしまうこともある。「大丈夫ですよ」との声かけ。何と温かい言葉だろう。間違っても大丈夫。失敗しても大丈夫。「次にはもっと気を付けよう」との気持ちになる。スタッフ同士でも、「大丈夫！」と声を掛け合っているのをよく聞く。

緊急一時保護施設であるから滞在期間は原則2週間。入所数日後に退所の方もあれば、次へのステップに進むのに時間がかかり、3週間、4週間と滞在される方もある。相談員とも連絡を取りながら、ご本人も決断されて退所の日を迎える。

人生で大切にしてきたものすべてを残し、DV被害から逃れて、小さなバッグ1つで入所されたばかり。献品の下着等の生活必需品をスタッフの助けを借りて僅かばかり紙袋に詰め、戸口に立たれる。

希望よりも、不安のほうが大きいことだろう。スタッフ達が見送る。

「大丈夫。お元気で。」

女性の家HELPの名前は“House in Emergency of Love and Peace”の頭文字からつけられている。日本中の矯風会員と、女性の家HELPを支援してくださる方々が、「愛と平和が共にありますように」と日々祈っていてくださる。だから「大丈夫！」

女性の家HELP施設長 松井弘子



2021 年度 HELP 利用者概況

～ 「大切な人」の喪失・暴力被害に言葉を失いつつ、 回復へとゆっくり歩む女性たち ～

2021 年度の HELP 利用者は、外国籍女性 8 名、日本国籍女性 55 名、同伴児 8 名、合計 71 名であった。総宿泊数は、1486 泊（前年度比 59.5%）である。2020 年度に比べて宿泊数は相当程度減少したが、利用者総数は若干名増加し、滞在期間短縮の傾向が顕著に見られた。2021 年度は、前年度に引き続き、ミュージックセラピー（月 4 回）、フラワーアレンジメントに加え、内閣府セーフティーネット強化支援交付金プロジェクトによるアート、ヨガ等多様なセラビープログラムを年間通して実施した（P7 参照）。

DV 被害女性の安全確保等のため、HELP スタッフが医療機関へ同行した割合は、全入所者では 8.1%（前年度 16.1%）、外国籍入所者では 50.0%（前年度 53.6%）である。コロナ禍のため可能な限りの接触回避が図られる中にあっても、外国籍入所者が抱える言葉の支援を含めた同行支援の必要性は、変わることがない。

＜外国籍女性＞

外国籍女性総数 8 名のうち、子ども連れは 3 名おり、同伴児は 4 名、いずれも未就学児であった。入所理由の上位は DV（41.7%）、家族からの暴力（25.0%）、次いでホームレス・その他（各 16.7%）と続く。その他の内容は、内夫からの遺棄である。

外国籍全体の平均滞在日数は 17.92 日で、前年度の 76.75 日から 2 か月近く短縮し、過去 5 年間で最短の 2017 年度に次ぐ短期間である。2021 年度は、中長期型施設の入所受け入れが比較的スムーズに進んだことも要因である。

- DV 被害者…2021 度に依頼された DV 被害女性や子どもたちの中には、親を恋しがり母への怒りをあらわにする幼児との厳しい関係の中で体調不良に陥ったり、日本での社会的地位を守るために家を出ない決断をした家族への複雑な感情を抱える女性たちがいました。同じ家族であっても、それぞれに暴力の受け止め方は異なり、これら女性たちの混乱は大きかった。しかし、連日訪問する関係機関の相談員、ケースワーカー、子ども家庭支援センター職員等によるチームによるサポートを集中的に受け、無事安定的に住む環境へと進んだ。
- 居所無し…2021 年度は、家族との生活が成り立たずに家を出た女性や、施設での人間関係トラブルのため、一時避難する女性を受け入れた。短期間ながら、ミュージックセラピーなどのプログラムに参加し、心身のコンディションを整えて、笑顔で退所なさった。
- 入所者・退所者へのケア…2021 年度は、少人数のクリスマス会を 3 回に加え、まん延防止期間等以外の自由訪問を複数回行うほか、電話相談によるサポートを実施した。

女性の家 HELP は、
外国籍女性と子どもたちを
受け入れています

1990 年より東京都外国人女性緊急一時保護事業を受託しています。外国籍女性やその子どもたちを多数受け入れた経験があります。外国籍女性のシェルター利用に関するご相談は **03-3368-8855**（平日 10-17 時）までお願い致します。



<日本国籍女性>

日本国籍女性は 55 名、うち子ども連れは 2 名であった。入所理由は、ホームレスが 54.2% と半数以上を占めた。次いで、DV（夫・恋人からの暴力）・家族からの暴力が各 22.0%、その他 3.8% と続く。2021 年度は、前年度同様、DV（夫・恋人からの暴力）・家族からの暴力で 40% 以上を占めた。長引くコロナ禍で暴力被害に遭った女性と子どもたちが減らないばかりか、被害状況はより過酷になり、回復に相当時間がかかると見込まれる女性たちの利用が相次いだ。他方、妊娠女性の利用は皆無であった。

2021 年度に DV（夫・恋人からの暴力）で入所した女性たちの中には、地方出身の高齢の女性や、母子ともに障害や難病など特別なケアを必要とする若い家族なども含まれる。安全確保をし、都内在住の子どもとの交流を重ね、自炊可能な次なる居所確保へと歩まれる方、障害による生活上の困難に堪えつつ、次の施設入所時期を待つ方もいらした。

ホームレスの女性たちの年齢やシェルター入所に至る背景は様々であり、HELP での過ごし方もまた多様である。継続的な服薬の必要な持病を抱えた高齢女性や長期入院を経た女性が心身のコンディションを整えたり、医療保険を持たない若い女性が、それまでできなかつた通院をしたり、人付き合いの苦手な女性が、様々なセラピーに参加して「自己表現」を楽しんだりなどである。中には、複数回利用する方もおられ、緊張の続くコロナ禍で集団生活を継続していくことに苦労する姿も見受けられた。

平均滞在日数は 21.54 日、前年度（24.4 日）より 3 日短縮するも、3 週間以上の長さを保った。

<電話相談>

2021 年度の電話相談は、日本を含む 20 カ国（前年度 29 カ国）の方から、1066（前年度比 121.1%）の相談項目について相談があった。前年度に引き続き 20% 以上の増加の一因は、長引くコロナ禍で電話相談の需要が増大していることであろう。

外国籍の方の相談内容は、DV に関する相談、コロナ禍での国際移動に伴う検疫や空港手続きについて、関係機関のリモート化、デジタル化のため希望する手続きが
取れない、夫が在留資格手続
きに非協力で困る妊娠女性か
らの相談などである。
きに加えて、近隣自治体（相
談窓口）、外国籍支援団
体等から、技能実習生
の妊娠・出産について
や産前産後の安定的な居
所について、DV 被害や
生活困窮中で、生活保護準
用にならない在留資格を持
つかない夫への支援など多様な照会が
寄せられた。

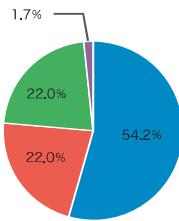


また、日本人の電話相談では、引き続き DV や性虐待経験の「その後」の生活の生きづらさを訴える電話等が連日続いている。新しい方のみならず、数年、数十年前の電話相談の方からの相談もあり、先の見えない不安が多くの影響を与えていていることが伺える。

2021 年度統計表

利用内訳

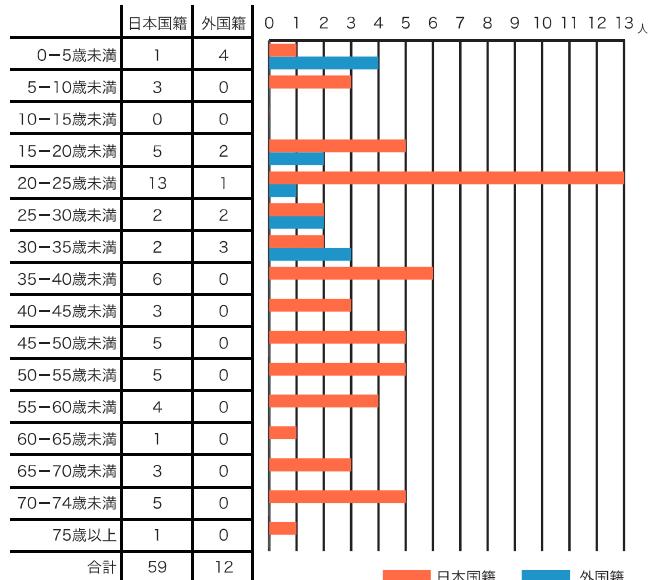
日本国籍



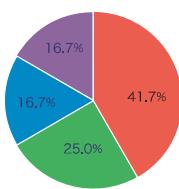
ホームレス	32人
夫・恋人からの暴力	13人
家族からの暴力	13人
その他	1人

利用者年齢分布

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日



外国籍



ホームレス	2人
夫・恋人からの暴力	5人
家族からの暴力	3人
その他	2人

HELP 国籍別滞在者数

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日) 昨年度から年度をまたいで滞在した者を含む

HELP 国籍別滞在者数

国籍	女性	同伴児
ミャンマー	3	0
中国	2	0
コンゴ	2	3
ネパール	1	1
小計	8	4
日本	55	4
合計	63	8

外国籍女性 8 人

その内同伴児のいる女性は 3 人

日本国籍女性 55 人

その内同伴児のいる女性は 2 人

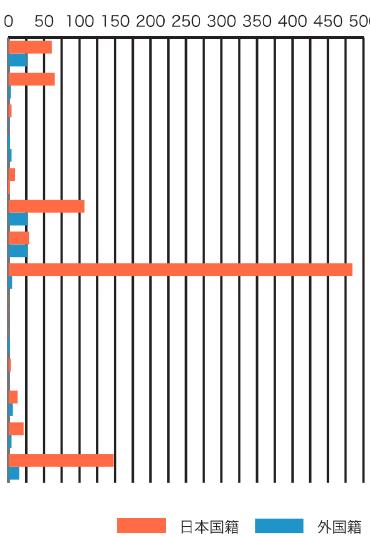
外国籍利用者地方別内訳

出身地	人数
東京	10
神奈川	2
合計	12

電話相談項目件数

内容別

	日本国籍	外国籍
DV	61	26
家族からの暴力	65	3
人身売買	4	1
在留資格・入管関係	1	4
労働	9	1
一時保護依頼	107	27
情報提供	29	27
心の問題	484	5
結婚	0	0
離婚	0	2
結婚生活上の問題	3	0
子どものこと	13	6
ホームレス	21	4
その他	148	15
合計	945	121



国籍別

国籍	件数
日本	945
フィリピン	33
ネパール	9
中国	8
タイ	7
アメリカ	7
ミャンマー	6
インド	5
南アフリカ共和国	3
ナイジェリア	3
コンゴ	3
イギリス	3
ロシア	2
ベトナム	2
ブラジル	2
インドネシア	2
マレーシア	1
フランス	1
ウクライナ	1
不明	23
合計	1066

利用者退所先

退所先	日本国籍	外国籍
施設	35	7
アパート	1	3
女性センター	2	2
帰国	0	0
帰宅	3	0
友人・知人宅	0	0
路上	1	0
入院	2	0
住み込み就職	0	0
不明	2	0
未定	7	0
その他	6	0
総計	59	12

外国籍利用者平均滞在日数

年	平均滞在日数
2017年	16.38日
2018年	50.03日
2019年	46.46日
2020年	76.75日
2021年	17.92日

国籍別宿泊数

国籍	件数
日本	1271
外国籍	215
合計	1486

内閣府セーフティーネット強化支援交付金によるプロジェクト報告

2020年8月にスタートしたプロジェクトも2年目を終え、4月にはさらに内容に改良を加え3年目を迎えようとしています。

昨年度はコロナ禍が続く中ではありましたが、感染対策を十分にして利用者向けのセラピーを途絶えることなく実施できました。ヨガ講座は年齢を問わずに参加でき、体を動かすのみならず、呼吸を整えることが、精神的な安定につながる効果があり、参加した多くの方がそれを実感されていたようです。アートセラピーは暴力や生活困窮から逃れ、混乱した状況にある利用者が気持ちを言語化することが難しい状況の中、制作の過程で気持ちを解放できるというメリットがあります。退所後も通いたいとの希望があり、セラピーへの参加と同時に近況を聞きながら生活面の相談も同時に行うというケースもありました。セラピーを通して本来の自身の持つ力とエネルギーを取り戻し、次のステップに進めるこことを心から願っています。



臨床心理士、精神科医、弁護士による研修、スーパービジョンも感染が拡大する中、Zoomを最大限に活用して機会の提供に努めました。今年3月に蔓延防止措置が解除となる時期に合わせ、ようやく対面での研修が叶いましたが、やはり顔と顔を合わせての研修は意見や質問もたくさんあがり、活気がありました。一方でZoomは「自宅からも気軽に参加できる」との声があり、

昨年に比べて参加者が増えたのはこのことも影響しているかもしれません。今年度はスタッフが日々の支援で感じる不安や疑問の解消につながるようなテーマを心がけてきました。心理・

精神分野では PTSD、うつ病を含む感情障害などの精神疾患のメカニズムや治療、社会資源や関わりの方法について、また支援者がバーンアウトを予防するためのセルフケアについて学び、実践につなげる機会を持ちました。法律分野では利用者に関連

のあるDV保護命令、成年後見制度や債務整理等について学びを深めました。また成年年齢の変更など10代の利用者に関する制度改正等、情報のアップデートを目的とした研修も行いました。

今年度はこれまで同様、退所後HELPへ里帰りのような形で、相談、セラピーなどのプログラム参加のために訪問し、アフターケアとして、支援を切れ目なく継続していくとともに、必要な方へは退所先の住宅へ訪問するなどアウトリーチの支援も行っていきたいと考えています。コロナ禍での生活困難に苦しむ人々、様々な暴力から逃れてきたサバイバーの方たちが真に心を休め、癒される場となるよう、利用する方々のための支援の質の向上、それを支えるスタッフのサポートに今後も努めていきたいと思っています。





～ 2022年4月から施設利用料が変わります ～

女性の家 HELP は、設立後まもなく設定した利用料を 30 年以上堅持し、シェルターを必要とする女性や子どもたちにご利用いただいてまいりました。この度、東京都による無料低額宿泊所に関する条例施行をきっかけに、以下のように利用料を一部変更いたします。

宿泊所利用料（室料）	単身の方	日額 1,790 円	月額 53,700 円
	2 人世帯	日額 2,130 円	月額 64,000 円
	3 ～ 5 人世帯	日額 2,320 円	月額 69,800 円
食事費 1 食につき	朝食 大人 400 円（子ども 300 円）		
	昼食 大人 600 円（子ども 400 円）		
	夕食 大人 800 円（子ども 600 円）		

なお、都道府県婦人相談所や市区町村との一時保護委託契約によるご利用の場合は、各契約に定められた利用料になります。また、それ以外の方法でご利用の場合は、上記の利用料または、委託契約による利用料のいづれかとなります。詳細は、事前にお問い合わせ下さい。

今後も、支援の質を保ち、引き続きおいしいご飯と 24 時間体制の見守りによる安心で居心地のよい生活空間でお過ごしいただけるようスタッフ一同工夫してまいります。皆さまの変わらぬ応援をよろしくお願い致します。



～ HELPでの携帯電話のルールを変えました！～

2021 年はじめから頃から、携帯電話 (SNS 機器) のルールが、このまままでよいのか議論はじめ、2022 年 1 月から試行期間の上、2022 年 4 月から正式に変更しました。

「原則、事務所で預かる」「使えるのは、一部の部屋で、昼間と外出時だけ」から、「原則自己管理」「使用場所は自室で終日使用可能」に変更しました。安全のためのこまかいルールも作成しました。

生活必需品、なくては暮らせないグッズとしてのスマート等、時代の流れで、単なる通信機器ではなくなってきています。幾たびもの論議を重ねて、権利を守ることと、リスクを回避することとのバランスを探りました。これからも、必要に応じて、変更することがあると考えています。スマートだけでなく、様々な、機器が次々発売されるのに、スタッフの頭は、ついていけないのが悩みです！？

シェルターであっても、シェルターだからこそ、自由と安全の両立を！
そしてそれを具現化するための議論は続きます。

Y.



「女性の家 HELP」を応援してください！

・・・・・維持献金で・・・・・

先の見通しの立てづらいこの頃ですが、皆さま、お健やかにお過ごでいらっしゃいますか？このような時だからこそ、HELP を支えて下さる一人一人のお力により助けを求める女性や子どもたちの支援活動が続けられますことを心から感謝申し上げます。

昨年度は日本、中国、ミャンマー、コンゴ出身の女性と子どもたち 71 人が HELP を利用され、また世界 20 ヶ国の女性に関する電話相談を受けました。親や家族による虐待・暴力のため、また、つらい過去と現在の生きづらさを抱え、女性の家 HELP の支援を必要とする女性や子どもたちが多数いらっしゃいます。今後もスタッフ一同、その支援に一層の努力をして参ります。

厳しい財政の下、HELP が担う使命を全うさせて頂けますよう維持献金によるご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

2022 年 6 月 公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会理事長 飯田 瑞穂
女性の家 HELP 施設長（施設担当理事兼務） 松井 弘子



・・・・・物品寄付で・・・・・

女性の家 HELP では、利用者の方への日用品等のお渡しにあたり、それが慣れた環境や人間関係から離れ、多くのお気に入り物品を失ってシェルターへたどり着いた女性や子どもたちにとって、新しい生活に向けた「希望」と「意欲」を育むきっかけとなるよう心掛けております。皆様からお寄せいただいたお志を活かして、年齢や国籍・文化等に基づくおひとりおひとりの多様な必要に応えられる今後も努力してまいります。皆様のご協力ををお願い申し上げます。

コロナ禍につき、現在は新品のみ受付しております。ご協力をお願い致します。

- 《食料品》 調味料（砂糖・塩・醤油・サラダ油）、ジャム、お菓子、嗜好品（コーヒー・紅茶・ココア・緑茶・ジュース・クリーブ）＊賞味期限内の物
- 《日用品》 シャンプー、洗濯用粉洗剤、台所用洗剤、ティッシュペーパー、化粧水、乳液、化粧品、ハンドクリーム。
- 《衣料品》 大人用 — パジャマ、スウェット、靴下、ジャケット、パーカー、インナー（半袖、長袖）
＊現在、子ども用品は受付しておりません。
- 《その他》 折りたたみ傘、靴、ノート、タオルケット、バスタオル・フェイスタオル、クオカード、商品券など。

送付先：〒169-0073 新宿区百人町 2-23-5
日本キリスト教婦人矯風会気付 HELP 事務局
※月曜日から金曜日までの配達指定をお願い致します。

ご寄付ありがとうございます

2021 年度、UBS 証券株式会社、BOSE 合同会社より、女性の家 HELP がサポートする女性や子どもたちの生活の質向上のために、さまざまな物品のご寄付をいただきました。心から御礼申し上げます。